

# JSQCニュース No.184

1995年11月

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都渋谷区千駄ヶ谷5の10の11 (財)日本科学技術連盟内 電話 03(5379)1294

## 第25年度新役員決まる 新会長に米山高範氏

第25年度の新役員が通常総会において次のとおり選出承認された。以下敬称略

**会長** 米山高範(コニカ㈱社長)  
**副会長** 鶴尾泰俊(新潟国際情報大学教授)  
**副会長** 藤田史郎(NTTデータ通信㈱社長)  
**理事** ○磯貝恭史(大阪大学助教授), ○伊藤 清(アイシン精機会長), ○圓川隆夫(東京工業大学教授), ○大藤 正(玉川大学助教授), ○神田範明(成城大学教授), ○小宮忠志(㈱豊田自動織機製作所取締役), ○篠崎信雄(慶應義塾大学教授), ○高橋武則(東京理科大学教授), ○中條武志(中央大学助教授), ○新田 充(東電工業㈱取締役), ○長谷川直哉(日産自動車副本部長), ○福田渚沙男(㈱カンペ・アイ・エス・エス専務), ○福田正文(財)日本科学技術連盟理事), ○宮川雅巳(東京大学助教授), ○持本志行(朝日大学教授), ○森川忠正(財)日本規格協会所長) ○山崎正彦(コニカ㈱部長)  
**監事** ○俵 信彦(武藏工業大学教授)  
○牟田弘樹(日本電気ファクトリエンジニアリング㈱取締役)

## 名誉会員に豊田章一郎氏他3氏

去る10月21日に行われた第25回通常総会において、楠兼敬氏(日野自動車工業㈱会長), 田口玄一氏名(㈱オーケン社長), 豊田章一郎氏(トヨタ自動車㈱会長), 原田明氏(㈱オーケン相談役)の4氏が名誉会員に推薦され、名誉会員証が贈られることになった。

## 行事案内

### ●第211回事業所見学会(中部支部)

見学先: トヨタ車体㈱いなべ工場

三重県員弁郡員弁町大字市の原10  
事業内容: 自動車製造(ハイエース, グランピア)

討論テーマ: 「コストミニマムと品質、環境への高い目標の実現」

定員: 50名会員優先同業他社お断り  
申込方法: ハガキ又はFAXで会員No., 氏名, 勤務先, 所属(役職), TEL番号, 連絡先を明記の上, 中部支部事務局まで折返し参加要領をお送りします。

申込締切: 12月8日(金)までただし定員締切

申込先: 〒460 名古屋市中区栄2-6-12  
(財)日本規格協会名古屋支部内  
(社)日本品質管理学会中部支部  
TEL 052-221-8318  
FAX 052-203-4806参加費: 会員2,000円 非会員3,000円  
会員12月末日迄に銀行振込でご送金下さい。(取引銀行)さくら銀行名古屋支店普通口座  
No.5225620

## 『ISO9000とTQC再構築』が発刊される!!

玉川大学助教授 大藤 正

### 1. はじめに

1994年12月に発行されたJSQCニュースNo.177にJSQCメーリング・リストの開設が報じられて1年を経過しようとしている。既に140名を越えるメンバー登録がされている。

このメーリング・リストは慶應義塾大学の椿氏と、東京大学の兼子氏が中心になって運用を開始したものだが、品質管理や統計手法に関する質問や話題について、メッセージでやりとりされている。

このやりとりの中で多く目につくのはISO9000に関連する質問と回答である。質問に対して中央大学の中條氏が丁寧に回答されているには感心する。

そのような中で『ISO9000とTQC再構築』というタイトルの本が『ISO9000シリーズを越えて』というサブ・タイトルで日科技連出版社から発刊された。

### 2. 『ISO9000とTQC再構築』の内容

本書の内容としては、

第1章 ISO9000シリーズに基づく品質システム審査登録制度

第2章 ISO品質保証モデルの解剖  
(I) ISO8402詳解

第3章 ISO品質保証モデルの解剖  
(II) ISO9001詳解

第4章 ISOファミリ規格の“これまで”と“これから”

第5章 ISO9000とTQC

第6章 新TQCの構築  
という6章からなっており、300頁で、著者は東京大学の飯塚悦功氏である。

第1章ではISOシリーズ規格群の構成と内容、品質システム審査登録制度の概要。品質保証の意義などが約50頁にわたって解説されている。

第2章と第3章は、タイトル通り正に

### 「論文奨励賞」「品質技術賞」受賞者

第24年度「論文奨励賞」2件および「品質技術賞」1件が第279回理事会および第50回評議員会を経て通常総会において受賞が決まり表彰された。

#### 〔論文奨励賞〕

(1)鈴木知道氏(東京大学)

「連続プロセスのシステム同定のための実験計画について」

(2)鈴木秀男氏(東京工業大学)

「MDL基準による不良率変化時点の推定」

#### 〔品質技術賞〕

岩永隆史氏・塩見祐輔氏(㈱神戸製鋼所)  
「企画段階におけるコスト低減—焼結原料槽無人化システムの投資コスト低減活動一」

### 私の提言

### 模擬体験学習

東京理科大学  
教授 高橋武則

品質管理学会の重要な活動として、品質管理のための理論・手法・アプローチ方法の開発と普及があります。今回は普及の方に焦点を合わせ、SQCについて私見を述べみたいと思います。

SQCを特別の人に任せているという企業が少なくありません。しかし、多くの人が統計的方法を手軽に使ってこそSQSが力を發揮するわけです。コンピュータの普及した昨今、計算や作図に関しては以前のように苦労しなくて済むようになりました。そして、SQC教育を熱心に行っている企業が増えてきているわけですが、それにもかかわらず思ったほどSQCが盛んになっていません。その理由は、SQCの成功体験をもつことが簡単でないことがあると思います。

実際の問題に統計手法を適用するなどりますと、知識だけでは不十分で成功体験の有無が大きな意味をもってきます。多くの人々は最初の体験(試行錯誤)というハードルを敬遠します。そして、これを敬遠した人々はきっかけがつかめないままに時の経過とともにSQCから遠ざかっていきます。折角SQCの教育を受けたにもかかわらず、その能力が顕在化することなく消えて行くのはとても残念なことです。

いくつかのセミナーが採用している班別研究会という方式は、自分の問題を持参し講義と並行して実際の問題に挑戦するというものです、これはとても優れています。しかし、これが可能なのは、ある程度の長さの教育期間がとれ、いろいろなタイプの実務問題を指導できる講師を十分な数揃えられる場合に限られます。したがって、この方法を広く実施するには困難が伴います。

ところで、近年、ゲームを用いてQC教育を行うという試みが増えてきました。この試みはゲームという形で、模擬体験の場を用意するわけです。この方式を導入した場合には、教育が単なる知識教育に終わったりはしません。

ゲームを用いた教育には長い歴史をもつQCゲームとDEゲームがあります。しかしこれらは抽象度が高いため、多くの人々を対象に実施することができません。そこで抽象度を下げ、より分かりやすくしたゲームがいろいろ登場してきました。ただし、新しく登場してきたゲームは、口伝えには聞くのですがごく一部のものを除いて公表されていません。

この種の教育に関する研究発表と企業での実践の報告が活発になり、SQCが発展することを期待します。

## 第25年度組織および担当一覧表

総会	選挙管理	鷲尾*, 中條, 新田, 山崎, 福田, 森川, 小宮(中), 福田(西)
	庶務	山崎*, 篠崎
	(会員)・資格審査	新田*, 中條, 小宮(中), 福田(西)
	規定	森川*, 大藤
	会計・(予算)	福田*
	行事	神田*, 長谷川, 小宮(中), 磯貝(西) <他行事委員長が任命>
	編集(含論文審査)	Aグループ 圓川*, 副 中條, <綾野>, 飯田, 磯貝, <岩崎>, <兼子>, <鈴木>, <椿>, <長沢>, <仁科>, <松嶋>, 宮川, <山田> Bグループ 圓川*, 副 <西原>, <安藤>, <石山>, <内田>, 大藤, <鬼木>, <小柳津>, <加藤>, <北島>, <高須>, 新田, 野木, 福田, <山田>
	ニュース	副 圓川, (理事・編集10名以内)
	論文奨励賞選考	鷲尾*
	品質技術賞選考	米山*
評議員会	国際	高橋*, 篠崎, 中條, 伊藤(中), 磯貝(西)
	長期計画	米山*, 鷲尾, 藤田, 圓川, 神田, 篠崎, 新田, 福田, 宮川, 山崎, 伊藤(中), 福田(西), <久米>
	研究開発	宮川*, 大藤, 神田, 新田, 長谷川, 持本(中), 磯貝(西), <赤尾>, <木村>, <吉澤>
	日本学術会議経営工学研究連絡委員会	<赤尾>, <吉澤> (任期3年, 平成9年10月まで)
理事会	経営工学関連学会協議会(FMES)代議員会	大藤, 篠崎, <吉澤>
	経営工学研究連絡協議会シンポジウム実行委員会	大藤, 篠崎, <吉澤>
	中部支部	伊藤(支部長), 小宮, 持本 (中)中部支部 (西)関西支部
関西支部	関西支部	福田(西), 磯貝 <原(支部長)>
	25周年記念事業実行委員会	米山, 鷲尾, 藤田, 神田, 新田, 宮川, 山崎, 小宮(中), 福田(西), <久米>, <上田>, <新藤>, <鈴木>, <棟近>

### 第209回事業所見学会(関西支部)ルポ カノーネス(株)

さる8月24日第209回事業所見学会が神戸市西区の神戸ハイテクパーク内にあるカノーネス(株)で開催された。本見学会のテーマは『ベンチ・マーキング企業の技術開発戦略』—PC用マルチメディア周辺機器の開発現場一であった。

1983年創立の比較的新しい企業で従業員数も58名と少ない。しかし、今年の売り上げは1人当たり、約1億円と極めて生産性の高い企業である。自社では製造設備を持たない典型的な技術開発型の企業である。もともとは、信号処理用の製品を作っていたが、最近はPC用マルチメディア周辺機器の開発を中心にしてPCに拡張機能をもたらし、使い勝手をよくするためのボードやソフトを提供している知る人ぞ知る企業である。お盆明けという事もあり、参加者は20名とちょっと少なかったが、計算関連の企業や担当者が多かった。カノーネスの様な企業は米国ではシリコンバレーを中心に多く見られるが、日本ではなかなか存立が難しいにもかかわらず、めざましい成長をとげている秘密を探ろうと参加者は非常に熱心であった。

見学会は先ず山本業務部長の会社概要の説明があり、次に第1開発部(ソフト開発4階)、第2開発部(ハード開発、3階と4階)と見学した。特に、パソコンに滑らかな動画機能をとり入れる開発現場は大変面白かった。また、ソフトとハードの開発者がお互いに助け合ってバグ

や機能改善をしているのも非常に興味深かった。見学の後、竹本第2開発部長よりこれまで開発に力を入れてきた製品やこれから開発目標を中心に説明があった。その中で、品質管理の問題、部品調達(特にチップの確保)や在庫管理(今まで限定数のみ製造)の問題について言及された。パソコンの動画機能や3次元機能がますます充実するとともに家庭でいろいろなことが楽しめるようになるのが夢であると話された。最後に、質疑応答があり、従業員1人1人の積極性と創造的能力の高さがこれまでの成功の原動力であることが明らかになった。この意味で非常に有意義な見学会であった。

石井博昭(関西支部幹事)

当学会の理事を9期、評議員を3期歴任された、日本科学技術連盟専務理事、野口順路氏が、10月10日急性骨髓性白血病のため、逝去されました。

ここに同氏のご冥福を祈り謹んで哀悼の意を表します。

### 第35回公開大学講座ルポ

9月8日(金)、第35回公開大学講座が西東京科学大学(山梨県上野原町)で開催された。今回は例年とは異なり、西東京科学大学主催の第6回公開講演会と同日開催となり、公開大学講座は午前中に開催された。公開大学講座の講師は、同大学理工学部経営工学科の宮津隆教授、拓殖大学工学部工業デザイン学科の増山英

太郎教授のお二人で、参加者は56名とほぼ例年通りであった。参加者の中には周辺地域の企業の方も数多くみられ、講演のテーマに対して深い関心を寄せていることが伺えた。

最初は、宮津先生より「技術報告書の作成: 発表のノウハウ」というテーマでご講演をいただいた。研究発表で高い評価を得るために、発表内容の質が問われるは当然であるが、併せて発表の技術も要求される。日本文の作成のチェックポイント、英文作成時の注意点といったREPORT作成上の留意点に始まり、スライド・OHP作成の原則、グラフを書く際の注意点、発表の準備の進め方、Cueの使い方などの発表の技術をエピソードを交えてわかりやすく解説した内容は非常に興味深いものであった。

増山先生からは「現場に使えるやさしい官能検査—順位と対比較のデータ処理について」というテーマでご講演をいただいた。感覚強度の検査と好みの検査という2つに大別される官能検査のうち、後者を主体に解説された。最近の先生の研究から、プロ野球のチームの好みという身近な実施例をとりあげ、ガットマンのスケログラム分析、クレーマーの検定、スピアマンの順位相関といった順位づけデータを処理するための諸手法が紹介された。

なお、当日午後に引き続き開催された西東京科学大学第6回公開講演会では、同大学電子・情報学科坪山満教授、経営工学科中村元一教授、三菱電機株式会社専務取締役伊藤利朗氏による3つの講演をはじめ、大学研究施設の見学や懇親会が行われ、同日は密度の濃い有意義な1日であった。

山本久志(西東京科学大学)

### 1995年度日本品質管理賞・デミング賞等授賞式11月14日に開催さる

一本賞に菅野文友氏日経文献賞に久米均前会長

日本科学技術連盟は、1995年度の日本品質管理賞、デミング賞および日経品質管理文献賞の受賞者を発表し、授賞式が11月14日東京大手町の経団連会館で華々しく挙行された。

- ▷ 日本品質管理賞  
前田建設工業(株)
- ▷ デミング賞本賞  
菅野文友氏(帝京平成大学教授)
- ▷ デミング賞実施賞  
石川島播磨重工業(株)原子力事業部  
エムテックススマツム(株)
- ▷ デミング賞事業所表彰  
菊池プレス工業(株)
- ▷ デミング賞事業所表彰  
東陽精機(株)
- ▷ デミング賞事業所表彰  
日産自動車(株)村山工場
- ▷ 日経品質管理文献賞  
「MANAGEMENT BY QUALITY—品質による経営—」久米均著  
「開発最重点で世界に飛躍—経営革新の実践哲学—」芹沢良夫著  
「21世紀へのソフトウェア品質保証技術」日科技連ソフトウェア品質管理研究会編

### 学会活動の英文紹介資料

この度、当学会の活動内容を紹介する英文資料を作成いたしました。内容は、日本語の「入会案内」を英訳したもので、入手希望の方は当学会事務局までお問い合わせください。

### 1995年10月の入会者紹介

1995年10月12日の理事会において、下記のとおり、正会員96名、準会員3名、賛助会員1社1口の入会が承認された。

(正会員) 96名 以下敬称略

- 濱川泰博(徳島県庁)、○阿部昭博・吉永俊男(松下電器産業)、○角免匡(角免匡品質システム研究所)、○田中毅・柳谷美宏・澤田誠久(日本科学技術連盟)、○宮前敏(バンドー化学)、○畠本憲良(日鐵物流)、○加藤治信(富士ゼロックス)、○深谷肇・下川清和(クボタ)、○竹川博康(豊田工機)、○斎藤進(明電舎)、○東塚崇志(ダイキン工業)、○東條徹男(安川電機)、○宮原利英(不二越)、○宇田川広(三洋インフォメーションビジネス)、○石田晃(家電製品PLセンター)、○青木正博(いすゞ自動車)、○小田嗣雄・秋田真澄・守矢永司・田中重光・立澤寛・古屋昇・岡武・古崎昇勇・堺邦弘・上田英行・内村宏・竹原和紀・早川勲・藤野彦太郎・白浜茂機・窪田則勝・井上聰・草野良彦・寺中正洋・今井新一郎・畠山弘・伊藤敏・中川勝郎・木村徹也・加藤正一・側見稔・熊谷正・田中守・佐藤昭吾・伊庭野薰・吉岡豊展・佐藤晴悦・大橋純・土井幸司・高橋英機・井上満・千葉勝男・中村修(NTTデータ通信)、○児島洋(ミノルタ)、○保田文明(日本品質保証機構)、○向山洋一(関東自動車工業)、○石川茂・荒木康弘(日本科学技術研修所)、○大河原一彦(日新テック)、○清水学・大場延孝(鹿児島日本電気)、○石原隆昌・八木興志男(ジャパンエナジー)、○村松章・三上陽一・小林忠・升田裕之・岩本成男・小林憲爾・岩城勝太郎・渡辺敏・山本祐士・長良敏夫・大岩克彦・山口俊三・仙田英一・村木哲三(日本電装)、○小宮忠志(豊田自動織機製作所)、○稻田英雄・坂本正信・岩佐建夫(北海道テクシス)、○笛原信男(高島屋日発工業)、○中易秀敏(大阪工業大学)、○菅原勝夫(日本端子)、○荒深友良(朝日大学)、○青木至(日本鉄鋼連盟)、○松島信雄(平和時計製作所)、○神田和三(東洋紡績)、○田中富夫(積水プラントシステム)、○森本正文(ヨコタコーポレーション)、○萩原健茂(協和発酵工業)
- (準会員) 3名  
○岩田雅樹(名古屋工業大学大学院)、○有賀誠治(東京理科大学大学院)、○浅野英成(朝日大学大学院)
- (賛助会員) 1社1口  
○セントラルシステムズ(株)(システム開発本部長河合義雄)
- 10月12日現在の会員数  
正会員: 3183名、準会員: 71名  
賛助会員: 246社、270口